

令和7年度 学校自己評価結果等報告書

学校名（豊岡市立豊岡南中学校） 校長名（飯塚 智士）

1 学校教育目標

「新たな時代を担う 心豊かな生徒の育成」

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

生徒・保護者アンケートもたくさん意見が寄せられている（特に校則についての意見が多かった）。教員のアンケートも昨年度の評価方法の意見を踏まえ、職員の評価項目が削減され、必要な項目に焦点を当てて自己評価されていた。
生徒・保護者・教員に対するアンケートをもとに、評価分析がしっかりなされ、次年度に向けた課題・対応が考えられている。

2 学校教育推進の視点

①安全・安心な南中に ②学習が充実した南中に ③心の通い合う南中に
④地域に根ざした南中に

6 総合的な外部評価

学校日より・学年通信等により、学校や生徒の様子が分かりやすく保護者に情報発信されている。働きやすい職場環境づくりを整備し、また、生徒・保護者・教員・外部による話し合いの場が設けられ風通しもよく、非常に良好な状態で学校運営されている。
これからも非認知能力の向上に努めながら、課題（学力の基礎基本の定着、情報モラル等）も多くあると思うが、生徒たちが主体的に学べるよう南中の発展に向け、頑張ってもらいたい。

3 総合的な自己評価

勤務時間の適正化や業務改善が継続して進み、働き方改革の成果が着実に表れた。生徒の主体的な取組も定着し、体育祭のダンスや校則検討、総合学習のカリキュラム（南中クエスト）などで意欲的な姿が見られた。学校文化として落ち着いた雰囲気も根つき、「生徒が登校することを楽しみに思える学校づくり（生徒 93.2%、保護者 92.7%が『楽しく通っている』と回答）」が進んだ成果であるとする。また、保護者アンケートでも「学校の教育方針や様子がよくわかる（R5 67.5%➡R7 79.5%）」との評価を得た。
一方で、学習評価の在り方（主体的な学びの評価方法等）、PTA 活動や校務分掌の負担、読書活動の全体的推進、家庭での学習習慣の啓発など、教育活動全般における改善点もある。
次年度に向けては、学習評価の再研修や校務分掌の役割分担、ICT 活用による業務改善、再編された小中一貫教育のアップデート等が求められる。その他にも業務改善に向けた共通実践事項（メールのチェック、提出書類の締切り厳守）の定着や情報発信の強化、部活動地域移行に向けた議論の場づくりなど、学校運営全体の改善に向けた取組も推進していきたい。

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策	自己評価の妥当
教育課程	・ 確かな学力の育成	探求的で深い学びを意識した指導法を工夫している	B	教育課程全体では概ね安定した成果が見られた。（特に学校行事においては「よくできた 61%」「できた 39%」の回答） しかし、昨年同様、家庭学習の定着やボランティア活動の促進が課題として残った。次年度は探究学習（南中クエスト）の更なる充実と個別最適な学習指導を強化するとともに、指導と評価の一体化、家庭学習の習慣化、生徒会主体の活動の拡大等を重点的に進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業では、先生方が工夫して授業実践されている。生徒たちも真剣に授業を受けている。 ・ 「家庭学習の習慣化」については、家庭とも連携しながら、具体的にどのように取り組んでいくか協議していく必要がある。 ・ 間口を広げず「南中クエスト」に焦点をあてて取り組むことも検討していただきたい。 ・ 学校行事（体育祭の縦割りダンスなど）は全般的に安定した成果を出しているだけでなく、次年度に向けた課題も明確になっている。次年度に反省点をいかしてほしい。 ・ 生徒指導については職員間での共通理解が整備され、生徒の支援体制が確立されてきている。 ・ 校則検討委員会での生徒一人一人がしっかりと自分の意見を発言している姿をみて、心豊かな生徒の育成の成果を感じた。 ・ コミュニケーション教育において、非認知能力の向上に努めていることは評価できる。 ・ 小中一貫教育のアップデートについては、南中校区の小中学校の学校評価結果を共有し、運営方針を検討していくべきだと考える。 ・ 読書活動の低下については、新たな試みが必要である。（図書室の本の活用など）
	・ 道徳教育	全教育活動の中での道徳性の育成が図られている	B		
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を総合的に育成している	B		
	・ 総合的な学習の時間	指導計画に基づいた指導を行い、評価方法を工夫改善している	B		
	・ 特別活動	生徒会活動や学校行事において、生徒の自治能力を高めている	A		
学校運営	・ 開かれた学校づくり、コミュニティ・スクールの推進	教育方針や学校・学年・学級の様子を分かりやすく伝えている	A	教育方針の周知（「よくできた 50%」「できた 50%」の回答）、生徒指導体制「よくできた 41%」「できた 59%」の回答）、施設・設備の安全管理、安全点検（「よくできた 44%」「できた 53%」の回答）は概ね高評価であり、研修や組織体制も一定の成果が見られた。 一方、あいさつの定着や校務分掌の円滑化、PTA との連携強化が課題として示された。次年度は情報共有の仕組みをさらに整え、協働的な校内体制づくりを進めるとともに、引き続き、勤務時間の適正化を推進し、学校全体の業務改善を図る。	
	・ 働き方改革の推進	勤務時間の適正化に向けて取り組んでいる	B		
	・ 引継ぎ連携システムの強化	小学校からの情報を有効に活用するなど、連携が機能している	A		
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	問題行動の未然防止や早期発見、早期対応に心がけている	A		
	・ 校内研修の充実	研修の計画、推進体制、進め方が適切である	A		
	・ 危機管理体制の整備	日常的に施設・設備の安全管理、安全点検、補修ができています	A		
課題教育	・ 非認知能力の向上	非認知能力を向上させる取組を行っている	A	課題教育においては、非認知能力の向上、ふるさと教育、体験活動、健康教育（眠育）など多くの項目で昨年度を上回る評価となり、継続的な取組の成果が見られた。特に非認知能力の向上においては、コミュニケーション教育の充実、教職員の意識の高まりが大きく影響しているように感じる。 読書活動、環境教育、情報モラルなどは相対的に低く、改善が求められる。中でも読書活動は前年より低下しており、読書指導の見直しや図書館活用の工夫が必要である。また、環境教育については教科横断的な学習機会を設けていく必要がある。 次年度は、読書活動の充実に向け、ピブリオトークや読書の時間を設けるなど改善を図る。環境教育では地域資源を活用した体験的学習を取り入れ、情報モラル教育では具体的な事例を用いた指導を強化していく。	
	・ ふるさと教育	生徒に豊岡の良さを学ばせる取組を行っている	B		
	・ コミュニケーション教育	自分の考えを主張し、他者の考えを理解する場面を設定している	A		
	・ キャリア教育	生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて進んで行く力を育成している	B		
	・ 人権教育	教科・道徳・総合等、全領域で人権尊重の精神の育成が図られている	B		
	・ 特別支援教育	生徒個々の課題を明確にした指導計画を作成し、実践されている	B		
	・ 環境教育	教科・道徳・総合等、各領域で環境教育への取組を進めている	C		
	・ 安全教育・防災教育	生徒に対する防災教育が適切に行われている	A		
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	眠育を含め、望ましい生活習慣の育成を図る取組を進めている	A		
	・ 読書活動	読書活動を推奨し、生徒の読書活動の向上に努めている	B		

- ※ 各教科、領域、行事等に「体験活動」を積極的に取り入れ、教育活動の充実に努める。
- ※ 上記の評価の観点は市統一とするが、各校で特色ある活動・重点項目を追加してもよい。
- ※ 評価項目は各校の実態に応じて設定するが、外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。